



新年を前向きに迎えることを大切にしたいと思います。家族会の皆様のご健康を心よりお祈ります。

【 令和4年度の「家族学習会」を終えて 】

家族学習会は7月8月9月の3回で行ない、毎回参加希望者約10名前後でまた少し新しい情報を学びました。平成29年度から通常の定例会とは別に主に「統合失調症を学ぶ」をテーマに5回シリーズでコンボ出版のテキストを使うなどで行なってきましたが、その期間や内容と学び方はその時の状況に合わせて実施しやすい形に変更しながらの開催でした。

今回はまだコロナ禍のため期間は3回としましたが、オンラインで入手したCDを視聴しながら著名な先生の講演などで学ぶという貴重な体験をしました。教材はコンボ主催の市民公開講座、「みんなで統合失調症を学ぶ」～当事者や家族だけで悩まない社会に～というテーマで、幅広く講演と当事者・ご家族の体験談、地域で暮らすための支援や社会資源などについてのお話で構成されていて、本来でしたら東京の会場まで出かけなければ聴講できない内容です。最近のオンライン開催の恩恵も受けて今後もこのような学習会もできるという新しい発見がありましたが、今回は視聴覚教材の扱いに堪能な担当者の方の存在も大きかったことをここに記しておきたいと思います。

家族学習会の良いところは講演やテキストなどの学びに一区切りをつけたところで感想やそれぞれの思いや体験を語り合う時間を作れることです。私たちが一番悩むところはそれぞれが抱える病態の症状が強く出た時や出ているときにどのように理解し対応したらよいのかということで、今回もぎりぎり家族で頑張っているお話がいくつも出ました。

統合失調症は脳が関係している病気と言われていますが、その脳の関係の事を説明してくれる臨床医師はなかなかいませんでした。ところが今回の講演者の糸川昌成先生は実際に日々患者を診察している臨床医でありそして統合失調症の脳のメカニズムを研究している脳科学者なのだそうです。ですので幻聴についての質問に対してお話されたことが印象に残りました。「幻聴の時は実際に脳の中で聴覚の部位が活動しているの本人にははっきり聞こえている。その現象には8割肯定2割否定で臨む。私は体験できないがそんなことがあるのだと共感はできる。」「脳が持っている繊細さとストレスへの弱さが環境と関わって様々な症状を起こす。」「こころは脳よりも大きくこれまで生きてきた物語の中で培われてきている。希望のある物語と自分にとってのよりよい環境での生活が大切。」そして糸川先生を通して統合失調症に有効な薬の開発に生涯をかけて研究をされている脳科学者の存在と脳科学の進展への希望が持てるような気がしました。今後も注視していきたいと思います。

詳細を報告することは紙面の関係でできませんがこの他にも40年ぶりで「精神疾患」が高校の(次頁に続く)

これまでの主な活動(10-12月)

月日	項目	場所
10月5日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
10月8日	定例会	河内町中央公民館
10月13日	みんなねっと広島大会ウェブ全体会	会員宅
10月15日	婦人茶話会	総合福祉センター
10月16日	ふれ愛広場 花苗販売	大昭ホール前広場
10月22日	役員会	市民活動センター
10月26日	県連フォーラムin水戸	ザ・ヒロサワ・シティ会館
11月2日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
11月5日	定例会	市民活動センター
11月11日	県南かれん	総合福祉センター
11月19日	婦人茶話会	総合福祉センター
11月20日	「精神障害のある人とともに」講演会	取手市民交流センター
12月3日	定例会	市民活動センター
12月7日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
12月8日	県南ブロック研修会	牛久エスカードホール
12月19日	県連理事会	ウェブ会議
12月24日	役員会	市民活動センター



保健体育の教科書に記載されることになりその部分のコピーが入手できましたので読み合わせを行ない確認をいたしました。いろいろと課題はあると思いますがこの記載で高校生が正しく学ぶ機会ができる事を祈りたいと思います。

「いくら学んでも頭がざるのように入れても入れても零れ落ちていくのですが」と嘆いていると「大丈夫！どっぷりとつかっていればこぼれません！」と天の声が。

これからも「家族学習会」を楽しく続けていきましょう。（大久保タイ子）

【 我が息子と社会的かかわり 】

息子は発症してから28年になるが、発症した時は東京八王子の駒木野病院に入院、退院後は、多摩府中保健所のデイケアに週1回位通所しグループワーカーの花崎さん東谷さん、保健師の小川さん、などに大変お世話になった（喫茶店での話し合い、花見、近くでのキャンプもあった）。

その後、精神障害者を抱える家族会「府中梅の木会」が運営する近所のレスポワール工房という作業所（当時）に不定期に相当長い間通所した。絵画の先生小形さん（今でも本人賀状やりとり）、SSTの先生大久保節子さんにつき、この二つを一所懸命頑張っていた。公園清掃作業や布巾折り等も頑張り、これはお金をもらえた。一泊旅行なども実施され参加していた。尚この所長は今では有名な野村忠良さんだった（今でも本人賀状やりとり）。ここではいろいろな体験をした（本人談）。個人では英会話スクールで勉強し英検準2級も合格した。

その後龍ヶ崎市に転居し21年経過するがこちらに来てからは池田病院のデイケアや竜ヶ崎保健所のデイケアに参加した。個人では油絵教室に通っていた。その後は今でも続いている牛久のほっとピア工房（現ほっとピア・ワークス）に開所時から通所している（途中ブランクあり）。牛久市内で活動する精神障害者家族会「ほっとピア牛久の会（現ぬくもりの会）」の会員が中心となり、精神に障害のある方の自立と社会参加、社会復帰を図ることを目的として開所されたもので、ここに週平均2回ぐらい通所している。

それと、「イマココ龍ヶ崎」を設立された大久保タイ子さんの長年のご尽力により、にぎわい広場でのまいんバザール、マクドナルドや建金家具での友の会、イマココでのゲームの会、友の会に参加し社会的関係を体験している。その他に、ピア・かたつむり長瀬会長の紹介で訪問看護を10年利用させて頂いている。

これらの事から一人の当事者に対し社会はいろいろな関わりを持って接して頂いていることが判る。このような社会的資源や多大なる尽力に感謝すると同時に、当事者である息子が自ら通所している事に喜びをおぼえる。この様に振り返ってみると長い道のりを感じると共に、息子には息子の人生があると、つくづくそう思う。息子の人生を大事に見守ってあげたい。（T・Y）

【 編集後記に代えて 】

2022年はコロナ禍が長引き、行ってみて、直に会ってみて、聞いてみてあるいは体験してみても学ぶことに対する制約が続いた。

これに対し心ある主催者は代わりにウェビナーを開催してくれた。2022年2月、茨城県地方自治研究センター有賀絵里様の「新型コロナウイルス感染症による障害者への影響」研修会は中止になったが代わりに希望者に配信を頂いて、平時にできないことは非常時にできないなど、多くの教訓を学んだ。

同様の理由で、3月「だいじょうぶな社会に向けて」（日本統合失調症学会市民講座）、5月「みんなで統合失調症を学ぶ」（市民公開講座）、9月「障害者権利条約第1回建設的対話報告会」（日本障害フォーラム）、10月「みんなねっと広島全国大会」、12月「経験者が描く現在・未来 北海道ピアサポート協会代表講演会」（成田市社協）、同「双極性障害を学ぶ」（市民公開講座）など、大事な催しがウェブに載り、自宅で参観できた。

行ける時は行き、行けない時も参観できるハイブリッドに行動できる社会は、この際ぜひ広がってほしい。（T・K）

これからの予定(1月)

月日	項目	場所
1月4日	コミュニケーション障害研究会	市民活動センター
1月16日	県南かれん	総合福祉センター
1月21日	新年会	市民活動センター
1月28日	役員会	市民活動センター
2月4日	定例会	市民活動センター
2月8日	県南・県西ブロック研修会	牛久中央生涯学習センター